

第3回国語ワーキンググループの議題

議題 (1)

**国語科を通じて育成する資質・能力
の在り方・示し方について**

議題 (2)

**学習の基盤となる資質・能力の
在り方等について**

※「見方・考え方」は、次期学習指導要領では、解説ではなく学習指導要領本体に位置付ける方向性であることを踏まえ、本概略図に含めている。(参考:第2回国語WG)

【総則】

教育課程の編成

○教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

- 各学校においては、**言語能力、情報活用能力**(情報モラルを含む。)、**問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成**していくことが出来るよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする

第3回議題(2)
論点1

教育課程の実施と学習評価

○各教科等の指導に当たって配慮する事項

- 言語能力の育成を図るため、各学校において必要な**言語環境を整えること**
- **国語科を要**としつつ各教科等の特質に応じて、児童生徒の**言語活動を充実**すること
- 学校図書館等の活用を図り、児童生徒の**読書活動を充実**すること

第3回議題(2)
論点2

【国語科】

目標等

(柱書)

(資質・能力の趣旨)について、(学習過程)を通して、次のとおり育成することを目指す

(資質・能力の柱ごとの目標)

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

学びに向かう力・人間性等

第2回議題(2)
論点1

(見方・考え方)

(対象)を(教科固有の物事を捉える視点)の視点から捉え、(教科固有の考え方や判断の仕方)すること。

第2回議題(2)
論点2

内容

思考力、判断力、表現力等

第3回議題(1)
論点2
※以降も検討予定

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮

領域/言葉を使う目的(仮称)

第2回議題(1)
論点2

学習過程

第2回議題(1)
論点1

知識及び技能

第3回議題(1)
論点3
※以降も検討予定

知識及び技能に関する統合的な理解

第3回議題(1)
論点1
※以降も検討予定

**議題
(1)**

国語科を通じて育成する資質・能力 の在り方・示し方について

論点 1 高次の資質・能力（中核的な概念等）の整理

論点 2 思考力・判断力・表現力等の整理

論点 3 知識及び技能の整理

1. 「高次の資質・能力」の可視化の目的

- 検討項目③では表形式での内容の構造化で、
 - ✓ 「知・技」「思・判・表」の深まりの可視化
(従前の「タテ」の関係の可視化)
 - ✓ 「知・技」「思・判・表」の一体的育成の可視化
(従前の「ヨコ」の関係の可視化)
- を図ることにより、資質・能力の関係性の理解に基づき、それらを一体的に育成する単元づくりを助け「深い学び」を具現化しやすくする方策を検討した
- このうち特に、「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」(※以下、総称して「高次の資質・能力」)を示すことについては、「知・技」「思・判・表」の深まりの可視化を通じて「深い学び」を実現する単元づくりのイメージを教師が持てるようにする役割を担うもの

※論点整理では、「知・技」の深まりを示すものを「中核的な概念の深い理解」、「思・判・表」の深まりを示すものを「複雑な課題の解決」と仮称し、それらをまとめて「中核的な概念等」と呼んでいたが、新たな用語が増えることを避けるため現行でも用いられている言葉を用いることとしたもの。「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」をまとめて呼称する際、以後「高次の資質・能力」と呼ぶこととする。これらの用語の在り方については、各教科等WGでの具体的な議論も踏まえた上で、学校現場に趣旨が適切に伝わるものとなっているかという視点から継続的に検討。

2. 各WGでの検討に当たっての考え方

- こうした役割を果たす「高次の資質・能力」を各WGで具体的に抽出する際、各教科等固有の学習過程の改善を図るためには、教科ごとの特質に応じて検討が行われる必要がある、書きぶりを現時点で一律に整理すべきものではない
- 一方で、各教科等での「高次の資質・能力」は、備えるべき要素や性質等について、一定の共通性があることにより、各教科等を横断して適切に機能を発揮することが期待できる
- 各教科等の独自性を活かしつつ、共通に備えるべき要素や性質等が確保された「高次の資質・能力」の書きぶりとなるよう、次頁のように「高次の資質・能力」がその目的を踏まえたものとなっていることを担保するチェックポイントを示した上で、各教科等WGでの検討を深めてはどうか(次頁参照)
- なお、「全てのポイントに照らして異論の余地のない」ものを検討することは困難な場合も考えられるため、各教科等の授業改善に資する点を重視しつつ検討を進めるべきではないか

「高次の資質・能力」を検討する上でのチェックポイント(案)

【A 教科等の本質的意義の中核に照らした重要性の観点】

- ・目標の達成に資する上で重要であるとともに、各教科等の本質的意義の中核(「見方・考え方」)に照らし適切なものであるといえるか

【B 資質・能力の深まりを示す観点】

- ・要素となる個別の資質・能力の「深まり」を示す事ができているか。具体的には、内容のまとまりを単に要約した「見出し」に留まるのではなく、個別の資質・能力が児童生徒の中で相互に関連付けられて、統合的に獲得された際の姿を示すことができているか
- ・要素となる個別の資質・能力を学ぶことの意義(※)や、それを広く社会において、いつ、どのような文脈で活用することができるのか、を教師がイメージしやすいものとなっているか

(※) 学ぶことの「意義」は必ずしも実生活における実用的な側面にとどまらない点に留意

【C 深い学びを実現する単元づくりを助ける観点】

- ・教師が単元構想時に、「知識及び技能の統合的な理解」と、それにぶら下がる個別の「知・技」、「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」と、それにぶら下がる個別の「思・判・表」とを往還して参照した際、単元を通じて児童生徒が追究する本質的な「問い」を構想する上で参考になるか
- ・教師が単元構想時に、「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」と、それにぶら下がる個別の「思・判・表」とを往還して参照した際、論述・レポート・発表・作品製作等、単元を通じて児童生徒が資質・能力を統合的に発揮しながら取り組む課題を構想する上で参考になるか

【D 分かりやすさ等の観点】

- ・経験の浅い教師も含めて、一人一人の教師にとって、分かりやすく、使いやすいことに加え、教科等の面白さや魅力が伝わる文言となっているか(学習・指導を通じて、最終的には児童生徒自身が掴むことができる必要があるという点も留意)
- ・学校種・学年等、発達段階に即して妥当なものとなっているか(系統性等の重視により、発達段階に照らし過度に抽象的となっていないか等)

論点 1 高次の資質・能力（中核的な概念等）の整理

論点 1－1 高次の資質・能力の示し方（P9参照）

- 高次の資質・能力、資質・能力（思考力・判断力・表現力等／知識・技能）の系統的な発展をわかりやすく提示するために、
 - 高次の資質・能力、言葉を使う目的（仮称）や事項のまとまり（仮称）、資質・能力の関係性を整理して示してはどうか
- また、学校段階や学年、科目など、どのような単位で高次の資質・能力を示すかについては、
 - ✓ 小・中学校は学校修了段階で獲得してほしい高次の資質・能力を示すことができるが、
 - ✓ 高等学校は学校・生徒によって履修する科目及び履修する学年等が異なることから、

【思考力、判断力、表現力等】

- 小・中学校については、領域ごとに示し、
- 高等学校については、各科目別に領域ごとに示すこととしてはどうか

【知識及び技能】

- 小・中学校については、①領域ごとに共通の内容と、②全領域で共通の内容で示し、
- 高等学校については、各科目別に、①領域ごとに共通の内容と、②全領域で共通の内容で示すこととしてはどうか

論点 1－2 高次の資質・能力の内容（P10,11参照）

- 高次の資質・能力については、
 - ① 国語科の目標や本質的な意義から演繹的に導かれる側面と、
 - ② 個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面の2つがある。このため、次回以降、個別の学習内容とあわせて詳細に議論してはどうか

➡本日は、中学校国語科を例として作成した【イメージ】（P.8～11）を基に御議論をいただきたい

論点2 思考力・判断力・表現力等の整理

顕在化している課題

- 〔思考力、判断力、表現力等〕が細切れに教えられている傾向
- 言語活動例と〔思考力、判断力、表現力等〕の事項が別々に示され、対応していないものもある（P12参照）
- ➡ 児童生徒がどのような思考・判断・表現をする姿を目指すのかが分かりにくく、一連の流れとして“考えて・判断して・表現する”学びになりにくい

思考力・判断力・表現力等を、領域ごとに言葉を使う目的(仮称)を明示して整理してはどうか

改善のイメージ（P10参照）

次の2つの観点から、国語科で育成すべき思考力・判断力・表現力等を、具体的な学習活動と一体的に、言葉を使う目的(仮称)ごとに整理する

- ① 児童生徒が言葉を使う目的(仮称)に応じて主体的に試行錯誤しながら思考・判断・表現する学習を促し、深い学びを実現する観点
- ② 教師が、育成を目指す資質・能力を明確にして単元を構想し、指導と評価の一体化を実現する観点

論点3 知識及び技能の整理

顕在化している課題

- どの[知識及び技能]を思考・判断・表現の過程で活用することに重きを置くのか、取り立てて学習することに重きを置くのかが明確に示されていないため、具体的な指導がイメージづらい。さらに、言語文化の継承や価値観の形成そのものを知識・技能として身に付けたり、理解したりさせる指導が不十分

知識・技能を、具体的な指導がイメージしやすいように再整理してはどうか

改善のイメージ（P11参照）

いずれの側面の知識及び技能も、思考・判断・表現に生かしたりそれを支えたりするものであるが、

- ① 各領域の学習の過程で生かし深める側面と、
- ② 各領域の学習を支え文化的な知識や態度、教養として深める側面の二側面から、以下のように整理する

①各領域の学習の過程で生かし深める側面

- 単なる知識の暗記（量的な蓄積）で終わらせず、思考・判断・表現の学習活動を通して、知識を繰り返し運用・統合することで、深い理解と定着を図る

※必要に応じて、特定の事項を取り上げたりまとめたりして指導するなど、指導の効果を高める工夫に留意

②各領域の学習を支え文化的な知識や態度、教養として深める側面

- 文化的な知識や態度、教養を身に付けることの意義を踏まえ、そのものの習得を目的とした学習を通して、各領域の学習の質を高めるとともに、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承を実現を図る

※必要に応じて思考・判断・表現の過程で活用できるよう指導するなど、指導の効果を高めることに留意

参考：中学校学習指導要領 第2章 第1節 国語 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- (3) 第2の各学年の内容の[知識及び技能]に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。

※小学校、高等学校でも同様の規定

思考力、判断力、表現力等

知識及び技能

A話すこと・聞くこと

高次の資質・能力	言葉を使う目的（仮称）	資質・能力（概略）
目的などに応じて、社会生活に関わる課題や出来事などについて、自分の考えや感じたことなどを相手に伝わるように工夫して話すとともに、相手の話を聞いたり話し合ったりして考えを広げ深めることができる	情報の伝達	・説明や解説などをする。
	他者の説得	・根拠に基づいて主張などを述べる。
	情報の獲得/他者の主張の吟味	・説明や解説、主張などを聞いて自分の考えをもつ。
	合意形成	・進行を工夫し互いの発言を関連付けて考えをまとめる。

B書くこと

高次の資質・能力	言葉を使う目的（仮称）	資質・能力（概略）
目的などに応じて、社会生活に関わる課題や出来事、自分の経験などについて、自分の考えや感じたことなどを相手に伝わるように工夫して文章を書くことができる	情報の伝達	・説明や解説などの文章を書く。
	他者の説得	・根拠に基づいて主張する文章などを書く。
	感動の共有	・経験や想像したことを基に思いや感動を伝える文章などを書く。

C読むこと

高次の資質・能力	言葉を使う目的（仮称）	資質・能力（概略）
目的など文章を読んで内容を理解し、社会生活に関わる課題や出来事、自分の経験などと結び付けながら考えを広げ深めることができる	情報の獲得	・説明や解説などの文章の内容を理解して自分の考えをもつ。
	他者の主張の吟味	・論説などの文章の内容を理解して自分の考えをもつ。
	感動への共感	・文学的な文章の内容を理解して自分の考えをもつ。

高次の資質・能力

事項のまとめ(仮称)

資質・能力(概略)

①各領域の学習の過程で生かし深める側面

様々な働きをもつ言葉の意味や性質を理解し、目的などに応じて使うことにより、言葉による理解や思考、表現の質を高めることを理解できる	言葉の特徴や使い方に関する事項	・（言葉の働き）言語が共通にもつ言葉の働きに気付く ・（話し言葉と書き言葉）文字と音声との対応、書き言葉のきまりなどを理解する ・（漢字）漢字を読む、漢字を書く ・（語彙）語句の量を増す、語句についての理解を深める ・（文や文章）単語、文、話、文章の構成を理解する ・（言葉遣い）相手や場に応じた言葉遣いを理解し使う ・（表現の技法）表現の技法の種類とその特徴を理解し使う
	情報の扱い方に関する事項	・（情報と情報との関係）情報と情報との様々な関係を理解する ・（情報の整理）情報の整理の仕方やそのための手段を理解し使う

高次の資質・能力

事項のまとめ(仮称)

資質・能力(概略)

②各領域の学習を支え文化的な知識や態度、教養として深める側面

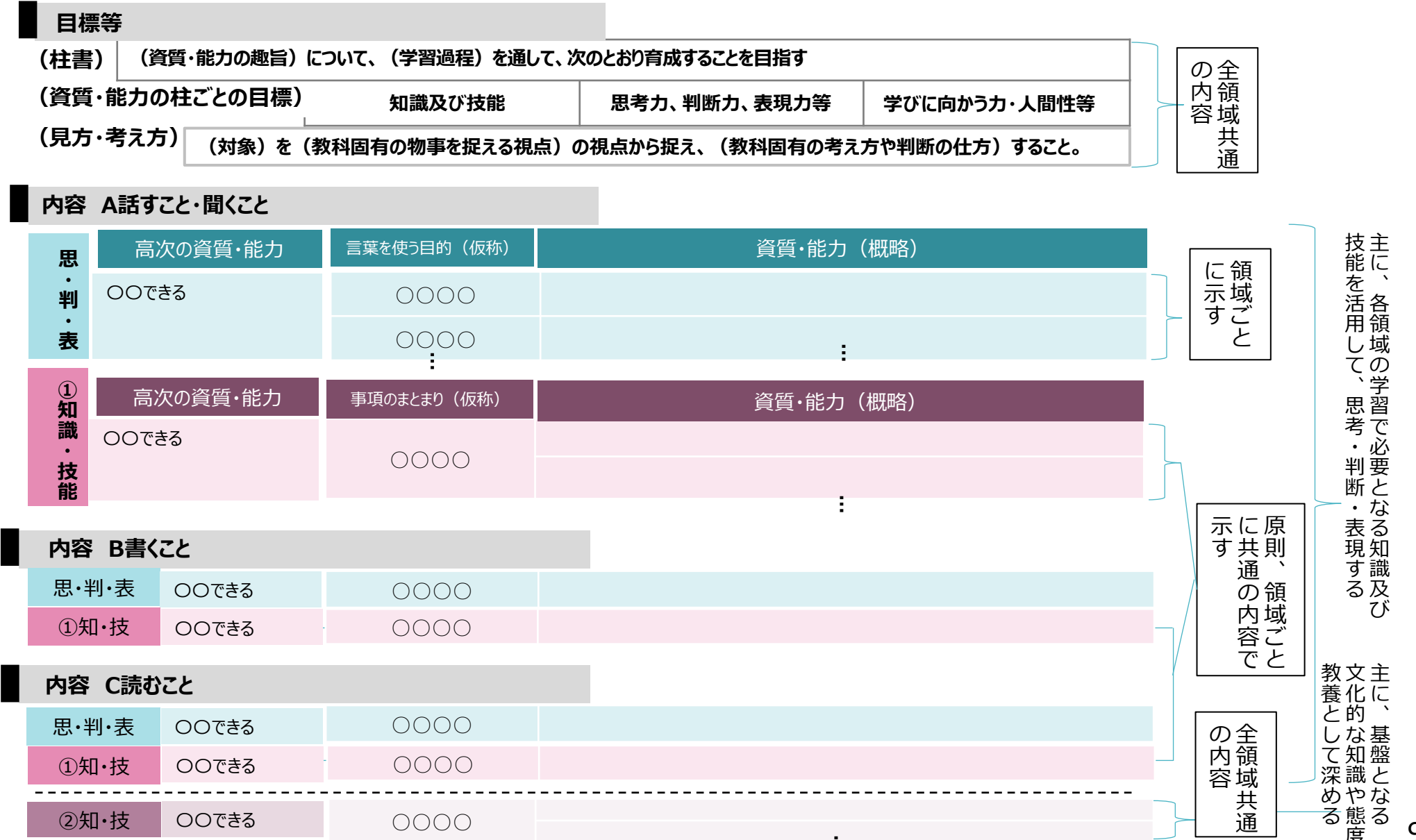
幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら言語文化を理解することが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解できる	我が国の言語文化に関する事項	（伝統的な言語文化）伝統的な言語文化に親しむ （言葉の由来や変化）言葉の由来や変化を理解する （書写）我が国の伝統的な文字文化を理解し、文字を効果的に書く （読書）読書の意義や効用などを理解する
--	----------------	---

※言葉を使う目的(仮称)、事項のまとめ(仮称)の内容の詳細については今後の「内容」等の検討を踏まえて引き続き検討

※資質・能力(概略)については現行学習指導要領をベースとしたものであり、詳細については今後の「内容」等の検討を踏まえて引き続き検討

高次の資質能力を含む全体の構成イメージ（中）

【論点 1－1】高次の資質・能力の示し方
高次の資質・能力を、言葉を使う目的（仮称）や事項のまとめり（仮称）、資質・能力の関係性を整理して示すこと、思考・判断・表現、知識・技能における高次の資質・能力の示し方について、ご議論いただきたい



【論点 1－2】高次の資質・能力の内容

高次の資質・能力について、
 ①国語科の目標や本質的な意義から演繹的に導かれる側面 と、
 ②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面
 の二側面を踏まえ、ご議論いただきたい

【論点 2】思考力・判断力・表現力等の整理
 思考力・判断力・表現力等を、領域ごとに言葉を使う目的(仮称)を明示して整理することについて、ご議論いただきたい

目標等
思考力、判断力、表現力等：社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
見方・考え方：対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉え、言葉への自覚を高めること。

内容（思考力、判断力、表現力等）

A話すこと・聞くこと		
高次の資質・能力	言葉を使う目的（仮称）	資質・能力（概略）
目的などに応じて、社会生活に関わる課題や出来事などについて、自分の考えや感じたことなどを相手に伝えるように工夫して話すとともに、相手の話を聞いたり話し合ったりして考えを広げ深めることができる	情報の伝達	・説明や解説などをする。
	他者の説得	・根拠に基づいて主張などを述べる。
	情報の獲得/他者の主張の吟味	・説明や解説、主張などを聞いて自分の考えをもつ。
	合意形成	・進行を工夫し互いの発言を関連付けて考えをまとめる。
B書くこと		
高次の資質・能力	言葉を使う目的（仮称）	資質・能力（概略）
目的などに応じて、社会生活に関わる課題や出来事、自分の経験などについて、自分の考えや感じたことなどを相手に伝えるように工夫して文章を書くことができる	情報の伝達	・説明や解説などの文章を書く。
	他者の説得	・根拠に基づいて主張する文章などを書く。
	感動の共有	・経験や想像したことを基に思いや感動を伝える文章などを書く。
C読むこと		
高次の資質・能力	言葉を使う目的（仮称）	資質・能力（概略）
目的などに応じて文章を読んで内容を理解し、社会生活に関わる課題や出来事、自分の経験などと結び付けながら考えを広げ深めることができる	情報の獲得	・説明や解説などの文章の内容を理解して自分の考えをもつ。
	他者の主張の吟味	・論説などの文章の内容を理解して自分の考えをもつ。
	感動への共感	・文学的な文章の内容を理解して自分の考えをもつ。

※言葉を使う目的(仮称) の内容の詳細については今後の「内容」等の検討を踏まえて引き続き検討
 ※資質・能力(概略)については現行学習指導要領をベースとしたものであり、詳細については今後の「内容」等の検討を踏まえて引き続き検討

【論点 1－2】高次の資質・能力の内容

高次の資質・能力について、
 ①国語科の目標や本質的な意義から演繹的に導かれる側面 と、
 ②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面
 の二側面を踏まえ、ご議論いただきたい

【論点 3】知識及び技能の整理

知識・技能を、具体的な指導がイメージしやすいよう
 に二側面で再整理することについて、ご議論いただきたい

目標等
知識及び技能 ：社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 見方・考え方 ：対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉え、言葉への自覚を高めること。
内容（知識及び技能）

各領域の学習の過程で生かし深める側面

高次の資質・能力	事項のまとめり（仮称）	資質・能力（概略）
様々な働きをもつ言葉の意味や性質を理解し、目的などに応じて使うことにより、言葉による理解や思考、表現の質を高めることを理解できる	言葉の特徴や使い方に関する事項	・（言葉の働き）言語が共通にもつ言葉の働きに気付く ・（話し言葉と書き言葉）文字と音声との対応、書き言葉のきまりなどを理解する ・（漢字）漢字を読む、漢字を書く ・（語彙）語句の量を増す、語句についての理解を深める ・（文や文章）単語、文、話、文章の構成を理解する ・（言葉遣い）相手や場に応じた言葉遣いを理解し使う ・（表現の技法）表現の技法の種類とその特徴を理解し使う
	情報の扱い方に関する事項	・（情報と情報との関係）情報と情報との様々な関係を理解する ・（情報の整理）情報の整理の仕方やそのための手段を理解し使う

各領域の学習を支え文化的な知識や態度、教養として深める側面

高次の資質・能力	事項のまとめり（仮称）	資質・能力（概略）
幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら言語文化を理解することが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解できる	我が国の言語文化に関する事項	（伝統的な言語文化）伝統的な言語文化に親しむ （言葉の由来や変化）言葉の由来や変化を理解する （書写）我が国の伝統的な文字文化を理解し、文字を効果的に書く （読書）読書の意義や効用などを理解する

※事項のまとめり(仮称)の内容の詳細については今後の「内容」等の検討を踏まえて引き続き検討
 ※資質・能力(概略)については現行学習指導要領をベースとしたものであり、詳細については今後の「内容」等の検討を踏まえて引き続き検討

現行学習指導要領における思考力、判断力、表現力等と言語活動例（中学校国語「B書くこと」）

※「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の領域も同様に、（２）で言語活動例を示している。

※小学校及び高等学校においても同様に、各領域において、（２）で言語活動例を示している。

【論点２の顕在化している課題】言語活動例と思考・判断・表現の結びつきが示されておらず、育成する姿がイメージしにくい。

言語活動例と思考・判断・表現の結びつきが分かりにくい

（中）第１学年	（中）第２学年	（中）第３学年
(1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。	ア 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること	ア 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。
イ 書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えたこと。	イ 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫すること。	イ 文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫すること。
ウ 根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。	ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。	ウ 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること。
エ 読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。	エ 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えること。	エ 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えること。
オ 根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。	オ 表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。	オ 論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。
(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。		
ア 本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。	ア 多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く活動。	ア 関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く活動。
イ 行事の案内や報告の文章を書くなど、伝えるべきことを整理して書く活動。	イ 社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く活動。	イ 情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く活動。
ウ 詩を創作したり随筆を書いたりするなど、感じたことや考えたことを書く活動。	ウ 短歌や俳句、物語を創作するなど、感じたことや想像したことを書く活動。	

思 判 表 の 事 項

言 語 活 動 例

※第1学年の(1)ウを指導する際は、主に(2)アの例のような学習活動を通して指導することが考えられる。

また、(1)のウ以外の事項に重点を置いて指導する場合に、(2)ウの例のような言語活動を通して指導することが考えられる。

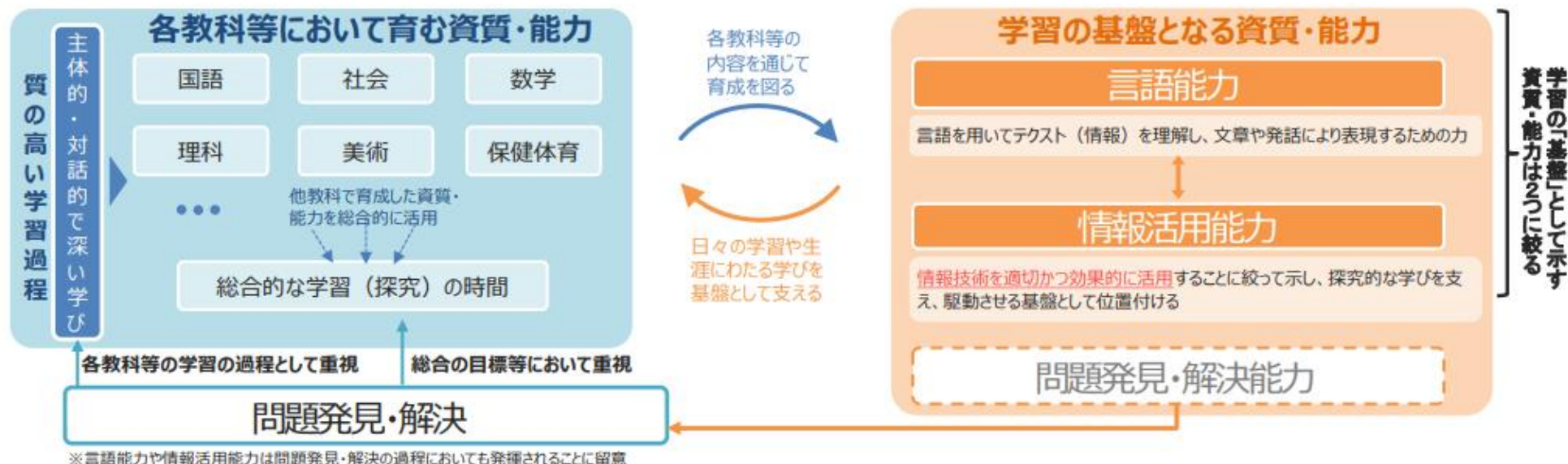
**議題
(2)**

学習の基盤となる資質・能力の 在り方等について

論点 1 子供たちが社会で活躍する2040年代を展望した言語能力の在り方について

論点 2 教科等横断的な言語能力の育成と国語科が果たす役割について

「学習の基盤となる資質・能力」の整理の方向性



※言語能力や情報活用能力は問題発見・解決の過程においても発揮されることに留意

＜問題発見・解決能力＞

- ① 児童生徒が取り組む課題に伴って能力の具体が変わるものであり、全ての学習の「基盤」として発揮可能な資質・能力をあらかじめ明確化することは困難
 - ② また、こうした力は、本人にとって意義のある文脈で質の高い問題発見・解決を繰り返す中で発揮できるようになるものであり、そうした文脈から切り離して育成することは難しいとの指摘もある
 - ③ 一方、各教科等で培った資質・能力を総動員し、個々の関心等に応じて様々な問題を発見し解決していく力を育む重要性は増している
今般検討している探究的な学びの充実は、「問題発見・解決」の要素と不可分一体（論点資料「3. 検討の方向性」）
- ➡ 「学習の基盤となる資質・能力」として示すのではなく、総合の目標の学校段階に応じた示し方を検討する中で、問題発見・解決の要素を重視するとともに、各教科等の学習の過程で問題発見・解決が重視されることを示すべき

＜情報活用能力＞

- ① 現在「情報及び情報技術を活用」する力となっているが、言語能力との重複があるとの指摘
 - ② 現代社会で情報技術を介さない情報活用に係る能力の育成は実践イメージが持ちにくい
- ➡ 今般の情報教育の充実を契機に、学習の基盤となる資質・能力としては「情報技術の活用」に絞って示すべき（「情報の活用」は各教科等の特質に応じて指導）
- ➡ 各教科等のみならず、探究的な学びを支え、駆動させる基盤として位置付けるべき

＜言語能力＞

- 全ての学習を支える基盤として重要な役割を果たしている
- ➡ 現行の整理を前提としつつ、見直しが必要な部分がないか検討すべき

➡ これらのことを前提としつつ、学習の基盤となる資質・能力の全体について、今後総則・評価特別部会等において詳細に整理すべき

【前提】学習基盤としての資質・能力の整理

論点整理において、「学習の基盤となる資質・能力」を言語能力と情報活用能力の2つに絞って整理する方向性が示されるとともに、言語能力においては現行の整理を前提としつつ、見直しが必要な部分がないか検討することが示された【P.14参照】

【検討の方向性】

上記の【前提】を踏まえ、

- ✓ 従来の言語能力の整理が、変化の激しいこれからの時代の学びに対応できるものとなっているか
- ✓ 言語能力がどのように育まれるのか
- ✓ 言語能力の育成において国語科が果たす役割は何か

について再整理することが重要

論点 1

子供たちが社会で活躍する2040年代を展望した言語能力の在り方について

顕在化している課題

AIによる大量の言語生成が可能となり、それをSNS等で容易に発信可能な時代となっているなど、言語環境は大きく変化しており、「学習の基盤となる資質・能力」としての言語能力が、こうした時代における言語の役割などを踏まえ十分なものとなっているかどうか、改めて検討すべき

- これからの時代に求められる力を見据えつつ、言語能力の在り方を再整理してはどうか（P17,18参照）

論点 2

教科等横断的な言語能力の育成と国語科が果たす役割について

顕在化している課題

- 各教科等における言語能力を高める学習活動の充実に向け、国語科が「要」として果たす役割の整理が不十分であり、他教科等で育成されるべき言語能力との区別が曖昧になっている。
- 国語科で育成すべき「読む力」と、各教科で必要とされる「教科書等を読み解く力」の役割分担が十分に整理されていないことにより、各教科における「教科書等を読み解く力」の育成が不十分になっているとの指摘（第1回国語WG資料1 P.3参照）

- 言語能力がどのように育まれるのかや国語科が果たすべき役割を分かりやすく示してはどうか（P21,22参照）

論点 1 子供たちが社会で活躍する2040年代を展望した言語能力の在り方について

教育課程企画特別部会における議論や、言語環境の大きな変化への対応を踏まえ、子供たちが社会で活躍する2040年代を展望した言語能力の在り方・内容を検討してはどうか

教育課程企画特別部会における議論等

(参考)「情報活用能力の整理」

- ① 現在「情報及び情報技術を活用」する力となっているが、言語能力との重複があるとの指摘
- ② 現代社会で情報技術を介さない情報活用に係る能力の育成は実践イメージが持ちにくい

情報活用能力については、今般の情報教育の充実を契機に、学習の基盤となる資質・能力としては「情報技術の活用」に絞って示すとともに（「情報の活用」は各教科等の特質に応じて指導）、各教科等のみならず、探究的な学びを支え、駆動させる基盤として位置付けるべき【論点整理】

(参考) 情報技術の加速度的な進化への対応

子供たちが生きる2040年代以降、情報技術の更なる進展が想定され、特に社会の課題解決では加速度的に進む（Society5.0）。

【5/12教育課程企画特別部会資料】

「情報活用能力の育成に資する指導内容は、情報技術の加速度的な進化に対応し刷新を図っていく必要があるため、学習指導要領解説の一部改訂をタイムリーに行うことを検討すべき」【論点整理】

現行学習指導要領における言語能力の内容

言葉は、生徒の学習活動を支える重要な役割を果たすものであり、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となるもの

(参考：言語能力を構成する資質・能力)

(知識・技能)

言葉の働きや役割に関する理解、言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け、言葉の使い方に関する理解と使い分け、言語文化に関する理解、既有知識（教科に関する知識、一般常識、社会的規範等）に関する理解が挙げられる。

特に、「言葉の働きや役割に関する理解」は、自分が用いる言葉に対するメタ認知に関わることであり、言語能力を向上する上で重要な要素である。

(思考力・判断力・表現力等)

テキスト（情報）を理解したり、文章や発話により表現したりするための力として、情報を多面的・多角的に精査し構造化する力、言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力、言葉を通じて伝え合う力、構成・表現形式を評価する力、考えを形成し深める力が挙げられる。

(学びに向かう力・人間性等)

言葉を通じて、社会や文化を創造しようとする態度、自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする態度、集団としての考えを発展・深化させようとする態度、心を豊かにしよう

これからの時代に求められる力を整理し、変化の激しい時代に対応した言語能力の在り方等についてP17～P20を参考に御議論を頂きたい

審議を深めるための視点例（2040年代を見据えて）

言語能力の在り方の再整理に当たっては、以下の視点を踏まえて検討することについてどのように考えるか。

- ① AIが自然で大量の言語生成を可能とし、SNS等による広範な発信が可能な時代において、自らの意思をもち考えの形成・表現や、他者の経験・感情の理解・共感といった人間ならではの言語能力を一層重視する
 - ② 次期学習指導要領の検討の方向性として教育課程企画特別部会が示した「自らの人生を舵取りする力の育成」や「民主的で持続可能な社会の創り手の育成」の実現に資するよう整理する
- ※ 国語WG第2回で示した国語科の学習過程の再整理とも整合する必要(P19参照)

視点① 自らの人生を舵取りする力 ～「好き」を育み、「得意」を伸ばす～

■ 自らの意思をもち考えを形成し、表現することができる力

生成AI時代においては、与えられた答えを再現するだけでなく、読んだことや聞いたことを既有知識や経験と結び付けながら課題や関心に基づき自らの意思をもち考えを形成するとともに、行動や選択の道筋を描き、他者と共に考えを広げ深める力が一層求められる。こうした力は、自らの人生を主体的に舵取りし、「好き」を育み、「得意」を伸ばすために不可欠な言語能力の重要な要素ではないか。

- 現行の「(思・判・表)考えを形成し深める力」や「(学びに向かう力・人間性等)自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする態度」を、自ら問いを立て、言葉で考えを構築し、他者との対話で深める力として強化することが、これからの時代に求められる言語能力の在り方ではないか。

視点② 民主的で持続可能な社会の創り手 ～当事者意識を持って、自分の意見を形成し、対話と合意ができる～

■ 表面的な言葉の意味だけでなく、その背景にある他者の経験・感情・思考・意図を推察し理解・共感できる力

仮想空間での学びや交流が広がり、対面のコミュニケーションによる豊かな情報がない状況での言葉のやり取りも多い中であっても、自分の体験や感情をもとに感じ取ったことを言葉で表現したり、他者の経験・感情・思考・意図に寄り添って受けとめ理解・共感する力の価値は高まっていく。こうした力は、デジタルとリアルを往還しながら学ぶ時代において人間らしい学びを支える言語能力の重要な要素であり、対話や合意を通して多様な他者と理解を重ねることで、民主的で持続可能な社会の創り手の育成につながる基盤となるのではないか。

- 現行の「(思・判・表)言葉によって感じたり想像したりする力」や「(思・判・表)言葉を通じて伝え合う力」を、体験や感情のやり取りを重視する形で強化することが、2040年代を見据えた学びに不可欠な言語能力の在り方ではないか。

■ 目的・場面・相手を踏まえて表現を吟味し、多様な他者と対話する力

価値観の多様化が進み、社会の分断の可能性も指摘される中、異なる立場や背景を持つ多様な他者同士が知識や経験を共有し、理解を深め、課題を解決していくためには、目的・場面・相手を踏まえて表現を吟味し、非言語的手段も駆使しながら、対話する力が一層重要になる。こうした力は、民主的で持続可能な社会の創り手の育成に不可欠な言語能力の根幹にあるのではないか。

- 現行の「(思・判・表)言葉を通じて伝え合う力」や「(学びに向かう力・人間性等)集団としての考えを発展・深化させようとする態度」を、他者との対話を通じて考えを形成・整理し、新しい理解や成果を生み出す力として発展させることが、2040年代に求められる言語能力の在り方ではないか。

教育課程全体で育む「言語能力」が働くイメージ

AIによる大量の言語生成が可能となり、それをSNS等で容易に発信可能な時代だからこそ、
自らの意思や考えの形成・表現や、他者の経験・感情の理解といった人間ならではの言語能力を重視

受信

内容を正確に理解するとともに、発信者の経験・感情・意図を掴みながら、自己の考えを豊かに形成

構造と内容の理解・解釈

➤ 言語情報の正確な把握
理解のための方略を工夫しながら、
受け取った言語情報の構造や内容を正確に把握

各教科等の特質に応じた指導例：

- 教科書や資料のどこを読めば必要な情報を得られるのかなど各教科固有の文章の読み方を理解させる
- 重要な語句に線を引いたりメモしたり、理解できないときに前に戻って読み直したり質問したり、要点を図式化するなど理解を助ける方略を適用できるようにする

➤ 自分なりの意味の理解・解釈
正確な把握と同時に、既有の知識と結びつけたり多様な視点から検討したりしながら、自己にとっての深い意味理解・解釈の形成

各教科等の特質に応じた指導例：

- 黒板をただ写し取るのではなく自分の知っていることや考えたこと他の人の考えなども関連付けて書き加えるなどしてまとめるようにする
- 学習の要点として理解したことに加えて、一般化して言えそうなこと、具体的な事例、より詳しく知りたいことなどを説明させる

考えの形成

➤ 発信者の経験・感情等を踏まえた考えの形成
発信者の経験・感情・思考・意図を推察したり、それらを踏まえ自らの意思をもち考えを形成するなど、自他の経験や感情、意思と結びつける

各教科等の特質に応じた指導例：

- 他者の発言等の要点を理解した上で、発言の背景となる考えや経験、感情について推察できるようにする
- 理解・解釈した内容について、自分はどう思うか、どうしたいかを理由とともに明確にし、相互に交流することを通して自分の考えを補強したり見直したりできるようにする

表現・推敲

➤ 表現の過程での柔軟な調整
表現した後や表現の過程においても、他者の受け取りを推察しながら、表現の内容や方法を柔軟に調整し、必要に応じて修正する

各教科等の特質に応じた指導例：

- メモをそのまま読むのではなく、相手の反応を見ながら言葉を選び直したり、非言語的手段を駆使したり、意図が十分に伝わっていないようなら表現した内容でも修正して話せるようにする
- 一度書き上げた文章を読み手の立場から読み直したり、互いに読み合ったりして、目的・場面・相手に応じた表現になるように修正できるようにする

➤ 表現の前の省察や吟味
表現しようとする内容や構成・表現形式が、真に表現の目的を達成するか、意図しない結果を招かないか等の視点から省察し、表現を吟味する

各教科等の特質に応じた指導例：

- 表現を構想した後すぐに発表・記述等をするのではなく、表現の受け取り等を想定させ、省察・吟味できるようにする
- 表現しようとする内容や構成・表現形式を相互に参照し、受け取り方や改善の余地などについて検討させる

考えの形成

➤ 目的・場面・相手を踏まえた内容・構成の検討
自らの意思をもち考えを形成するとともに、形成した自らの考えや意図が目的に沿ったものか、相手に正確に伝わるかなどの視点から内容や構成、表現形式を検討

各教科等の特質に応じた指導例：

- 作品製作、レポート、発表などの多様な表現活動の中で、自分の考えや意図が目的や条件などを十分に踏まえているかを検討させる
- 目的や場面、相手に応じて言語情報を補足するのに効果的なメディアを選択し活用できるようにする

相手にどう受け取られるかを想像しつつ、自己の考えが伝わるよう工夫しながら豊かに表現

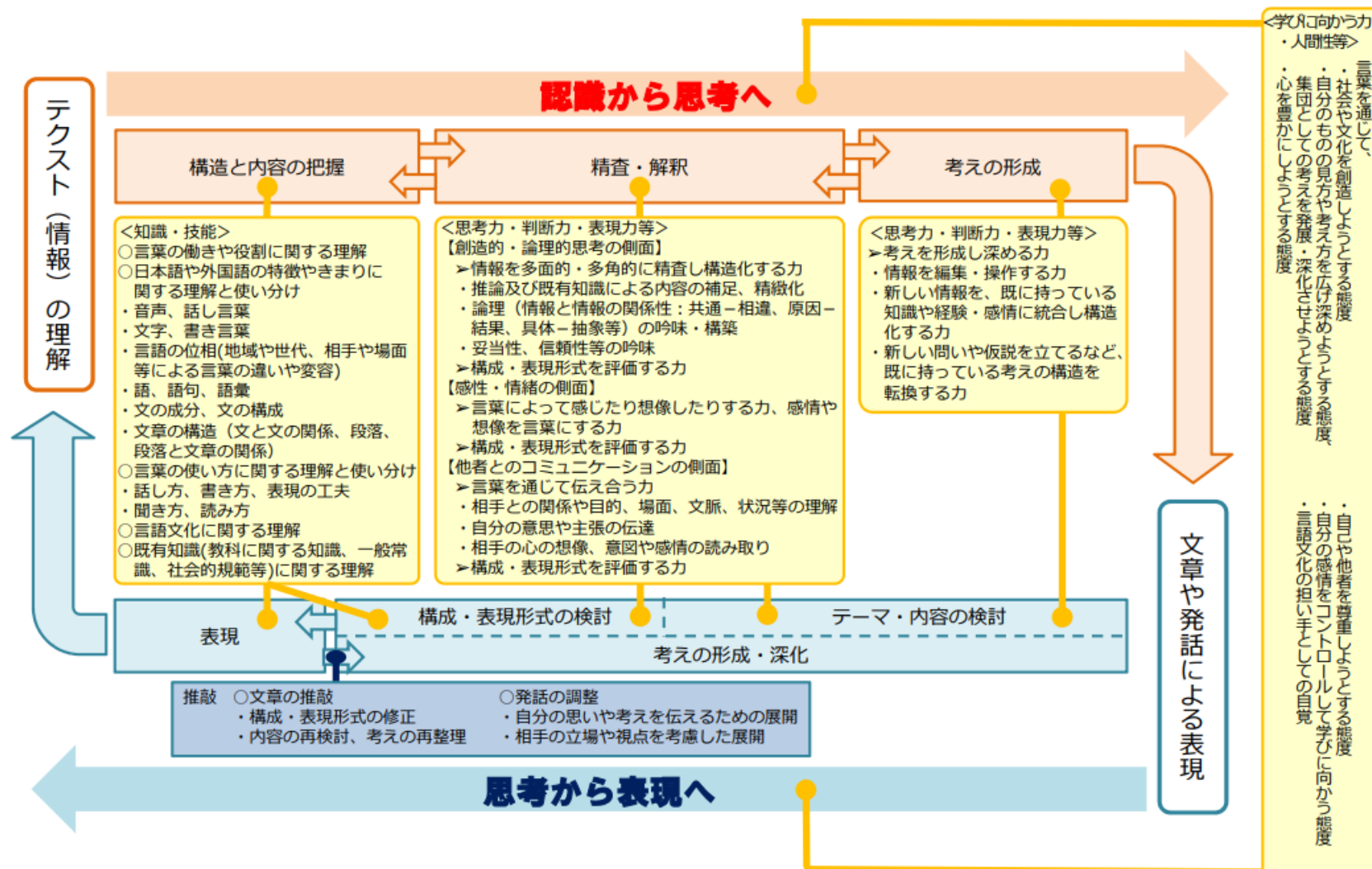
発信

各領域の学習過程の再整理

		理解			表現	
領域	読むこと	話すこと・聞くこと			書くこと	
		聞くこと	話し合うこと	話すこと		
現行	学習過程	構造と内容の把握	話題の設定	話題の設定	話題の設定	題材の設定
		精査・解釈	情報の収集	情報の収集	情報の収集	情報の収集
		考えの形成	構造と内容の把握	内容の検討	内容の検討	内容の検討
		共有	精査・解釈	話合いの進め方の検討	構成の検討	構成の検討
再整理 (たたき台)	学習過程	構造と内容の理解・ 解釈	構造と内容の理解・ 解釈	考えの形成	考えの形成	考えの形成
		・構造を理解する ・内容を解釈する	・構造を理解する ・内容を解釈する	・情報を収集する ・情報を整理する	・内容を検討する ・構成を検討する	・内容を検討する ・構成を検討する
		考えの形成	考えの形成		表現・推敲	表現・推敲
		・内容を評価し熟考する ・形式を評価し熟考する	・内容を評価し熟考する ・形式を評価し熟考する		・発話する ・発話を調整する	・記述する ・文章を推敲する

言語能力を構成する資質・能力が働く過程のイメージ

資料2



「教育課程部会 言語能力の向上に関する特別チームにおける審議の取りまとめについて（報告）」
(平成28年8月26日 言語能力の向上に関する特別チーム)

論点2 教科等横断的な言語能力の育成と国語科が果たす役割について

✓ 総則において、言語能力の育成のために各学校で取り組むべきことを三つの柱で整理している。

(略) 言語能力の育成を図るため、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要として各教科等の特質に応じて、生徒の言語活動を充実すること。あわせて、(7)に示すとおり読書活動を充実すること。【中学校学習指導要領（総則）より抜粋】

【柱①】言語環境の整備

- ・時代の変化を踏まえて、学習指導要領解説総則編における示す内容の充実
(充実が必要な内容案)
- ・デジタル学習基盤に対応した内容や多様性の包摂を担保した内容

※柱①～③の内容については、現行学習指導要領を踏まえ今後の方向性として作成

【柱②】国語科を要として各教科等の特質に応じて、言語能力を高めるための学習活動の充実

- ・言語能力を育成するとともに、各教科等の指導を通して育成を目指す資質・能力を身に付けるために充実を図るべき学習活動は、今後も一層充実

【柱③】読書活動の充実

- ・各教科等において、学校図書館の機能を計画的に利活用し、生徒の自主的・自発的な学習活動や読書活動を充実

※国語科での読書活動については、〔知識及び技能〕の「読書」の事項に関連して、今後のWGで検討予定

言語能力の育成のために各学校で取り組むべき三つの柱を分かりやすく示してはどうか

言語環境・学習活動・読書活動

上記三つの柱を踏まえ、言語能力の育成において国語科が果たすべき役割を分かりやすく示してはどうか

学習活動

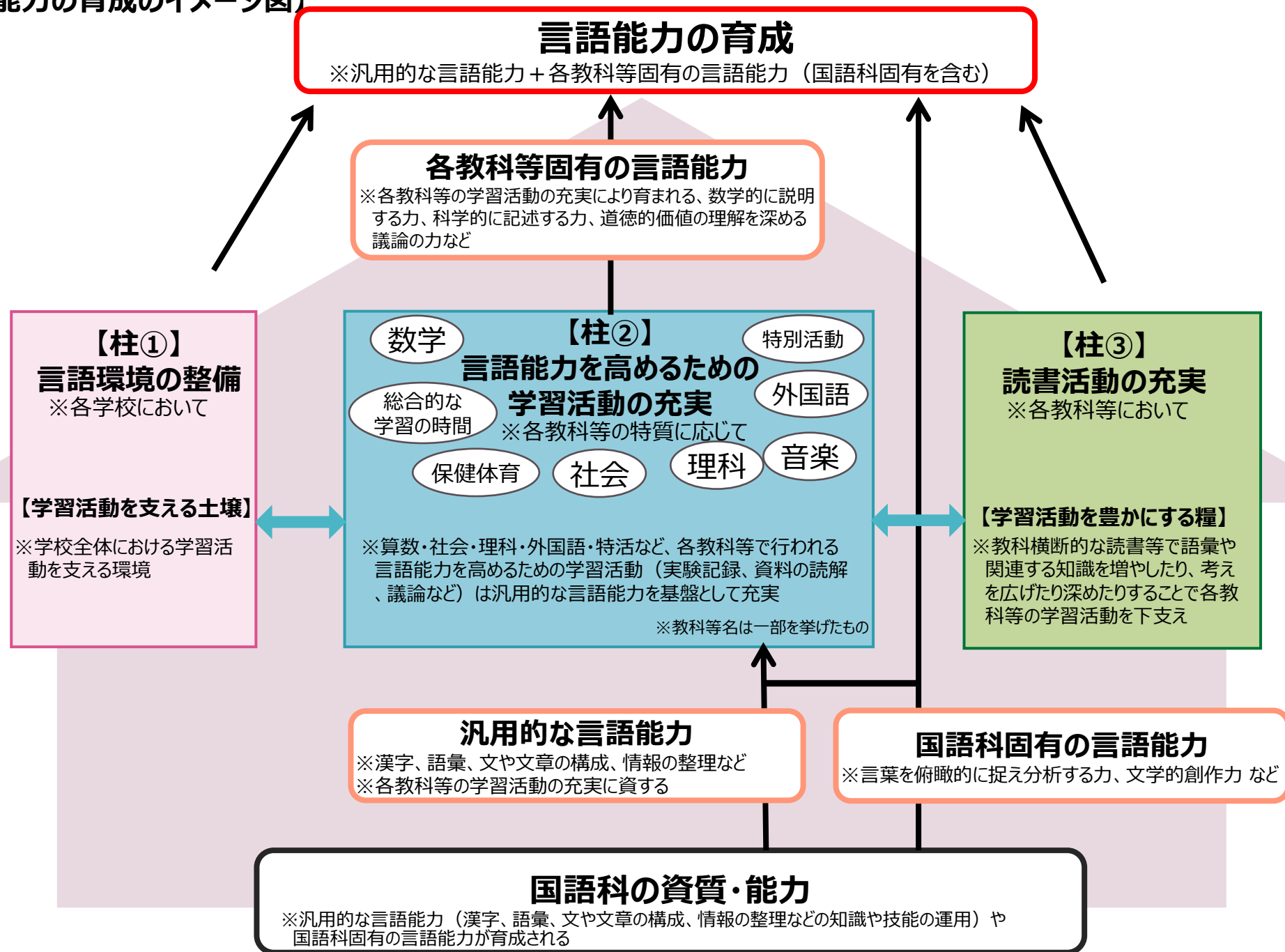
改善方策①

- 三つの柱の関係を分かりやすく示すことで、言語能力育成の実効性を高め、言語能力の育成を一層推進
- 各教科における「教科書等を読み解く力」の確実な育成に向けては、育まれる各教科固有の言語能力に加え、各教科固有の用語や概念の理解などとの相乗効果を図ることが重要
※「教科書等を読み解く力」の育成には、各教科固有の専門的な用語や教科書の構造等の理解、既存の知識等も重要であることに留意
※外国籍・特別な支援を要するなど、多様な背景をもつ児童生徒が学びやすいよう学校全体で配慮・支援する視点を重視

改善方策②

- 国語科の学びと各教科等の学習活動の充実との関係を整理することにより、各教科等における言語能力を高めるための学習活動の充実を一層促進するとともに、言語能力を確実に育成
※中等教育では、学習する内容が高度化・抽象化し、各教科等固有の見方・考え方や語彙、表現方法・様式等を用いた思考・判断・表現が不可欠となることから、各教科等の内容と関連付けた指導が一層重要になると考えられる。(数と式による証明、音楽や美術の専門的な用語を用いた鑑賞、理科での専門的な実験の記録や報告、道徳的価値の理解を深める議論など)

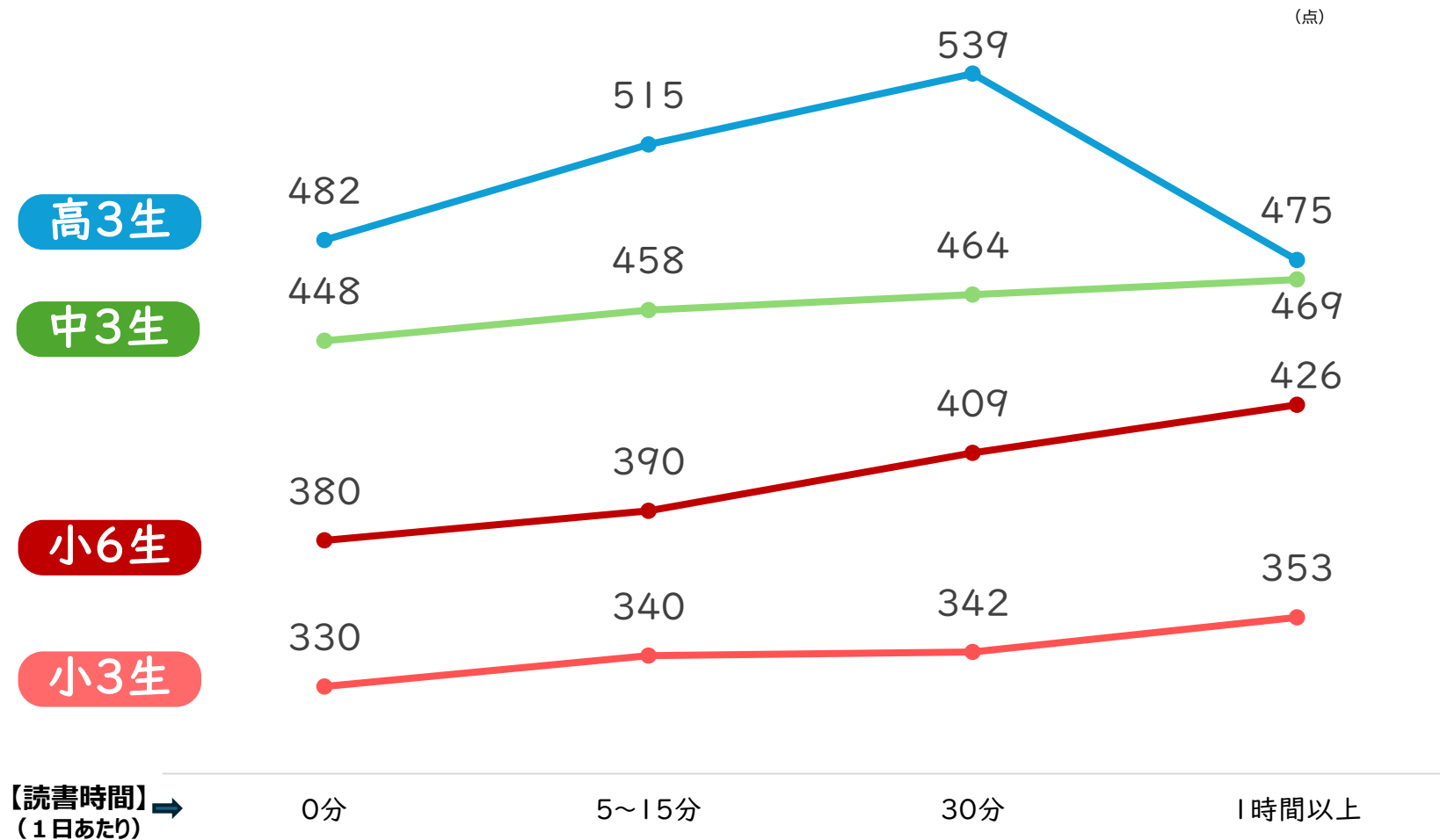
【言語能力の育成のイメージ図】



参考データ

小中は読書時間が長いほど語彙力が高い

読書時間別の語彙力



(出典) 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「語彙力・読解力調査2019、2022」

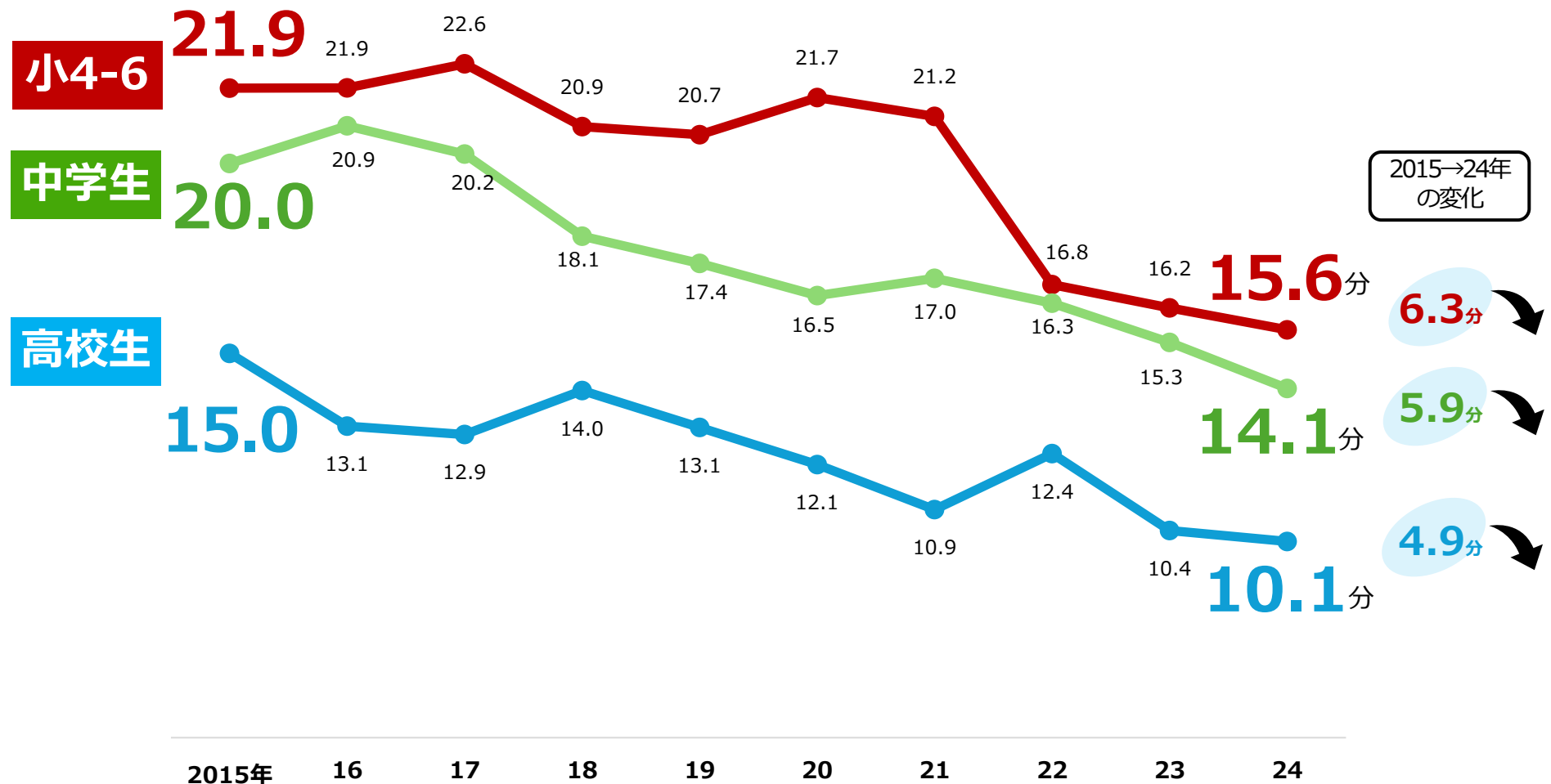
* 語彙力を測定するテストを実施。項目反応理論 (IRT) を用いることで異なる学年間での比較を可能にしている。得点は、高3生の平均が500点になるように標準化した。

* 読書時間は、「しない」は「0分」、「5~15分」は「5分」「10分」「15分」の合計、「1時間以上」は「1時間」「2時間」「3時間」「4時間」「4時間以上」の合計。

* 語彙力は、小3生と小6生は2019年調査の結果 (2022年調査は未実施)、中3生と高3生は2022年調査の結果を示した。

* 小3生 $p < 0.05$ 、小6生 $p < 0.001$ 、中3生 $p < 0.1$ 、高3生 $p < 0.001$ (いずれも分散分析)。

いずれの学校段階でも読書時間は減少傾向

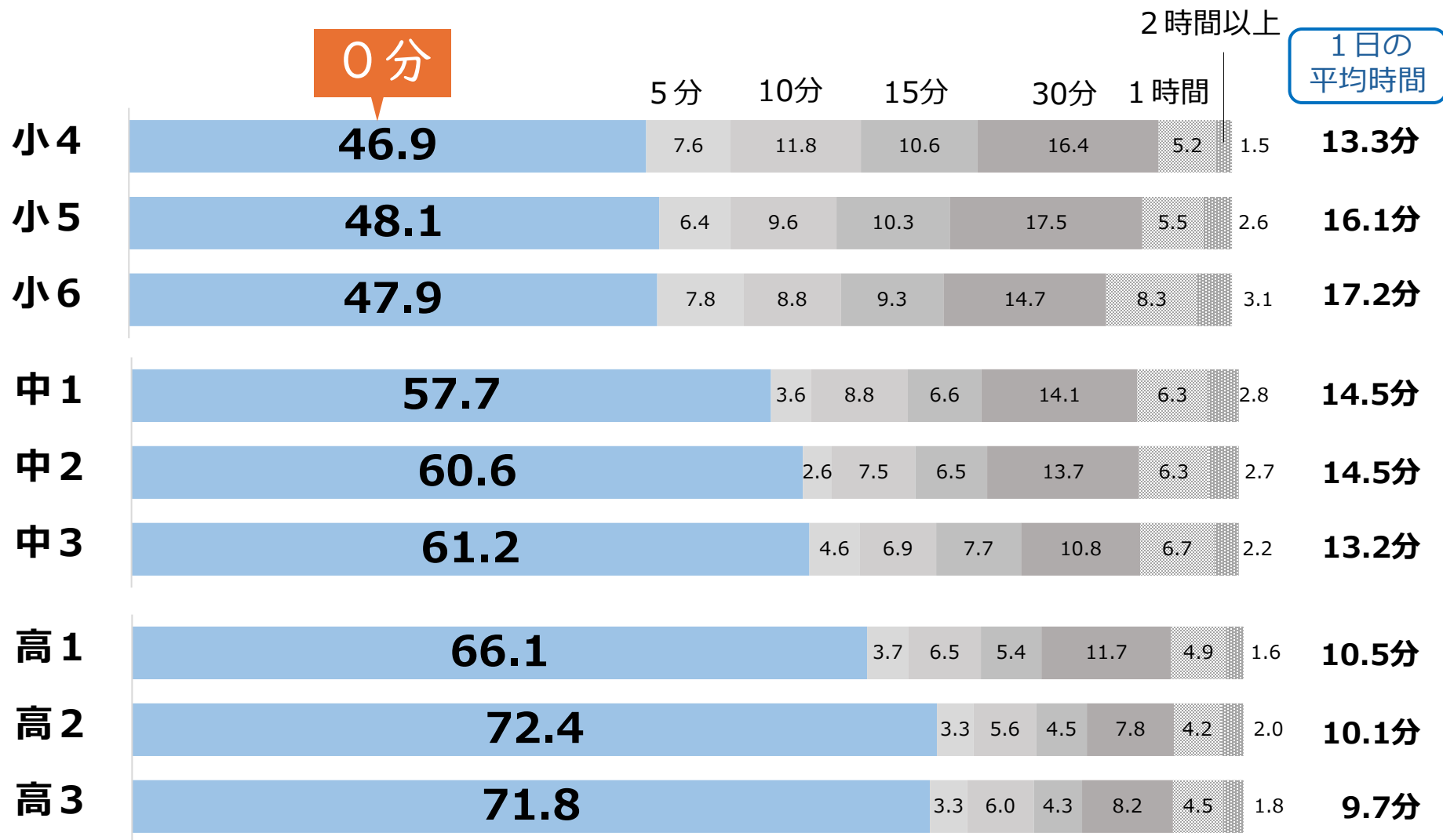


(出典) 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2015～2024」

* 「あなたはふだん（学校がある日）、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか」という設問の「本を読む」に対する回答（％）。2023年以降は「本を読む（電子書籍を含む）」。

* 「しない」は0分、「5分」から「4時間」はそれぞれ、5分から240分、「4時間以上」は300分を割り当てて平均値を算出した。

1日の読書時間が0分、半数以上



(出典) 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2024」

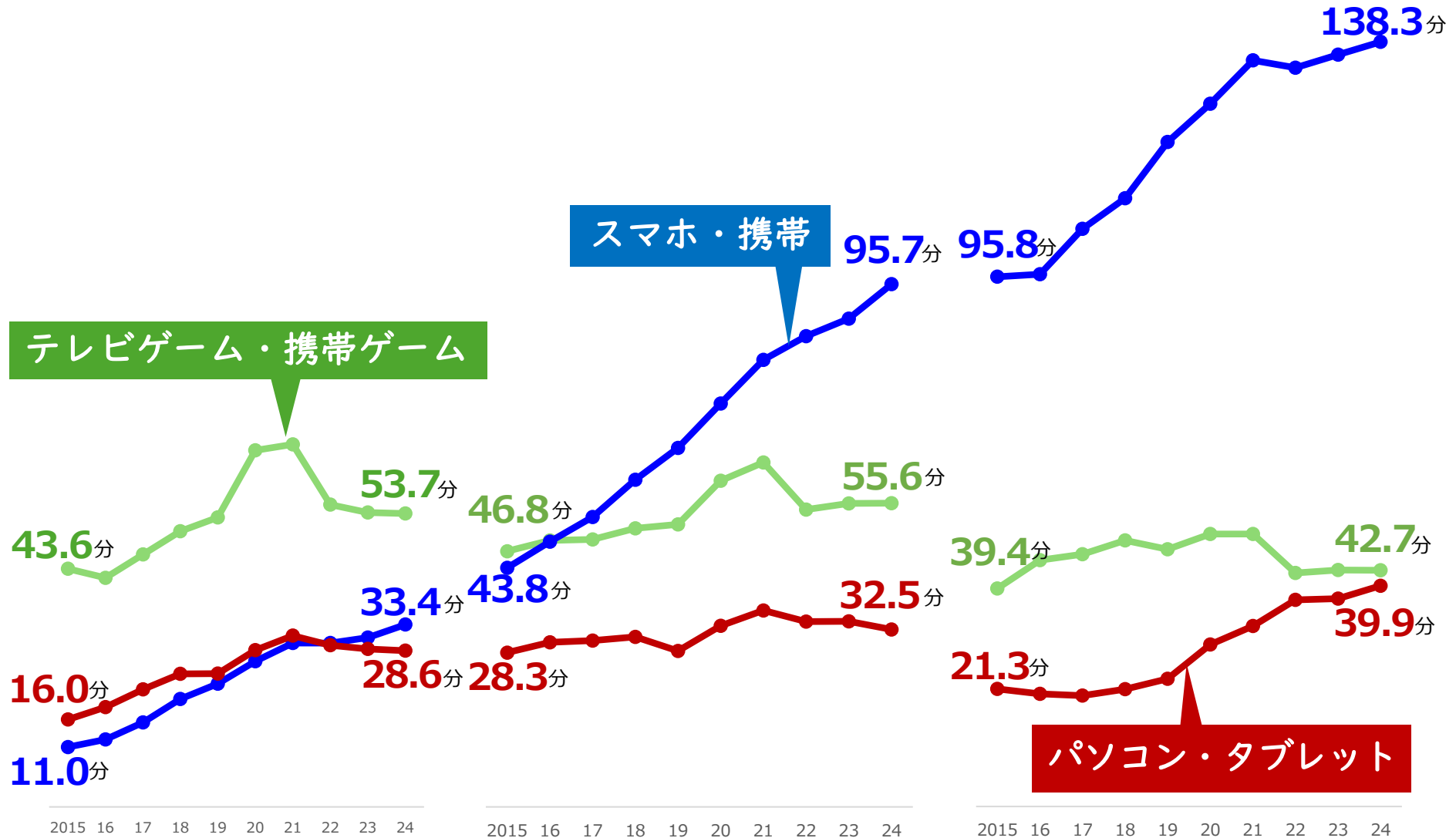
* 「あなたはふだん(学校がある日)、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか」という設問の「本を読む」に対する回答(%)。* 「2時間以上」は、「2時間」「3時間」「4時間」「4時間以上」の合計。* 平均時間は「しない」を0分として算出。

家庭でのスマホ・ゲーム、増加の一途

小4～6

中学生

高校生

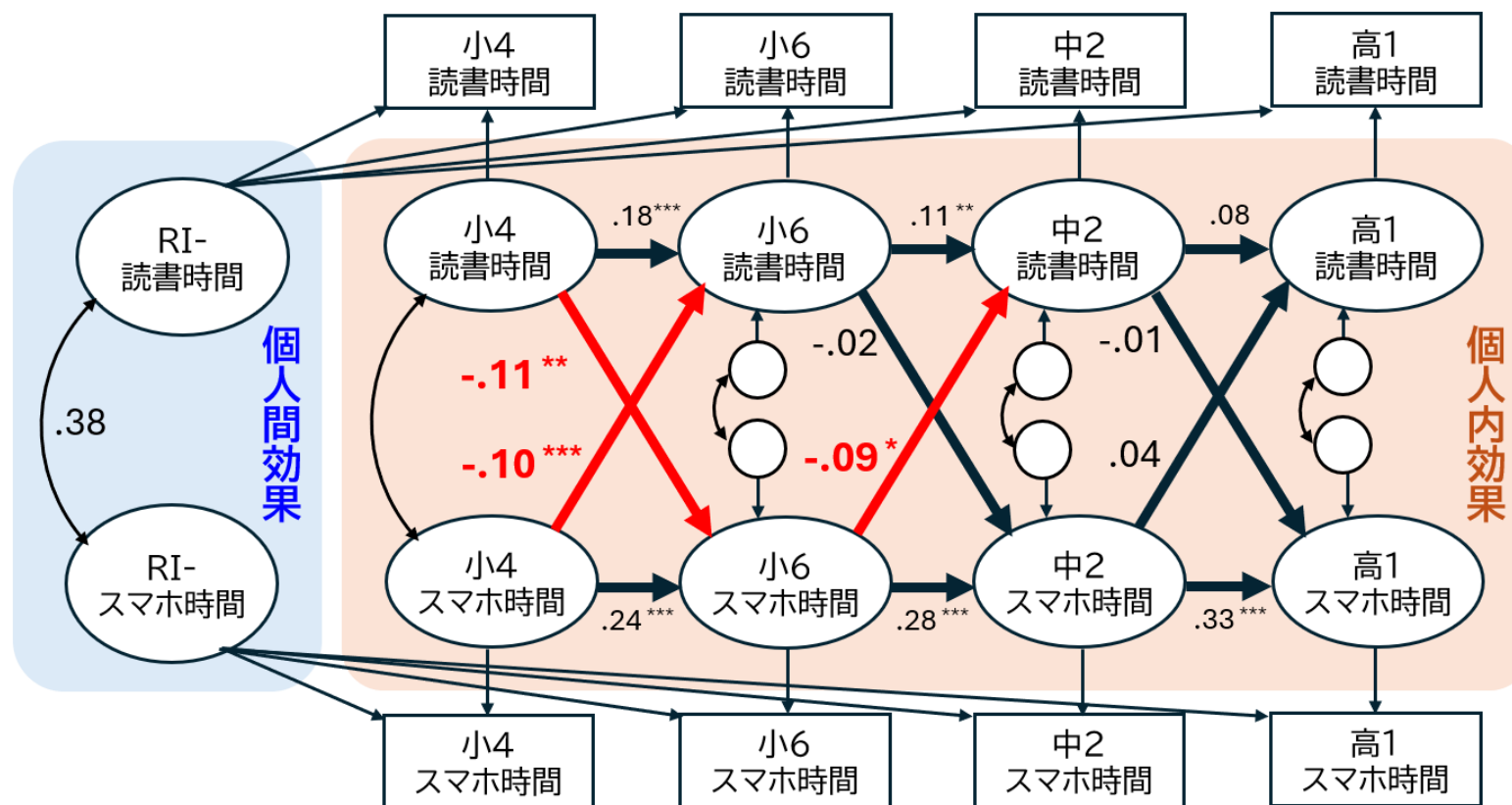


(出典)東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2015-2024」

*「あなたはふだん（学校がある日）、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか」という設問の「テレビゲームや携帯ゲーム機で遊ぶ」、「携帯電話やスマートフォンを使う」、「パソコンやタブレットを使う」に対する回答。
「しない」を「0分」、「4時間」を「240分」、「4時間以上」を「300分」などと置き換えて平均時間を算出。

発達段階に応じて変化する読書時間とスマホ時間の関連

- ・小学生のうちは、読書とスマホは「時間の取り合い」になりやすい。
- ・中学生や高校生など上の学年に行くほど、読書とスマホの相互の影響は弱まる



(出典) 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2018～2024」。木村治生氏（ベネッセ教育総合研究所）による分析。

* RI-CLPM (ランダム切片交差遅延パネルモデル) による分析結果。2018年に小4だった1,836名を2024年の高1まで追跡した。数値は、標準化回帰係数。*** $p < .001$ 、** $p < .01$ 、* $p < .05$ 。

* $\chi^2(9) = 17.55$, $p = .041$; CMIN/DF = 1.95, CFI = .984; TLI = .935, RMSEA = .023 (90%CI [.005, .039], PCLOSE = .999)

インターネットは多様な用途に利用

「週に1日以上」使用する比率

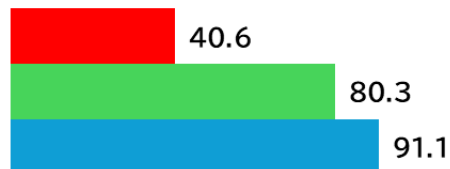
■ 小4～6生

■ 中学生

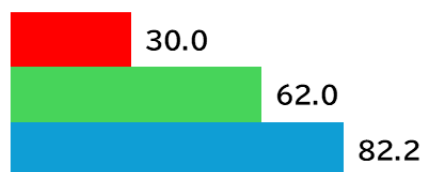
■ 高校生

交流

チャット



SNSの閲覧・投稿



余暇

動画をみる

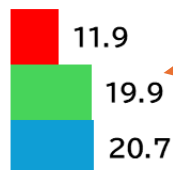


ゲームをする



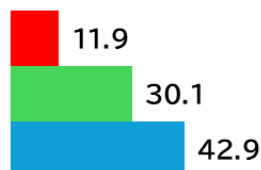
読書・マンガ

読書をする
(電子書籍)



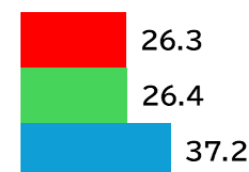
電子書籍は
中高生の2割

マンガを読む
(電子コミック)

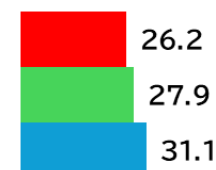


学習

学校の宿題や
課題をする



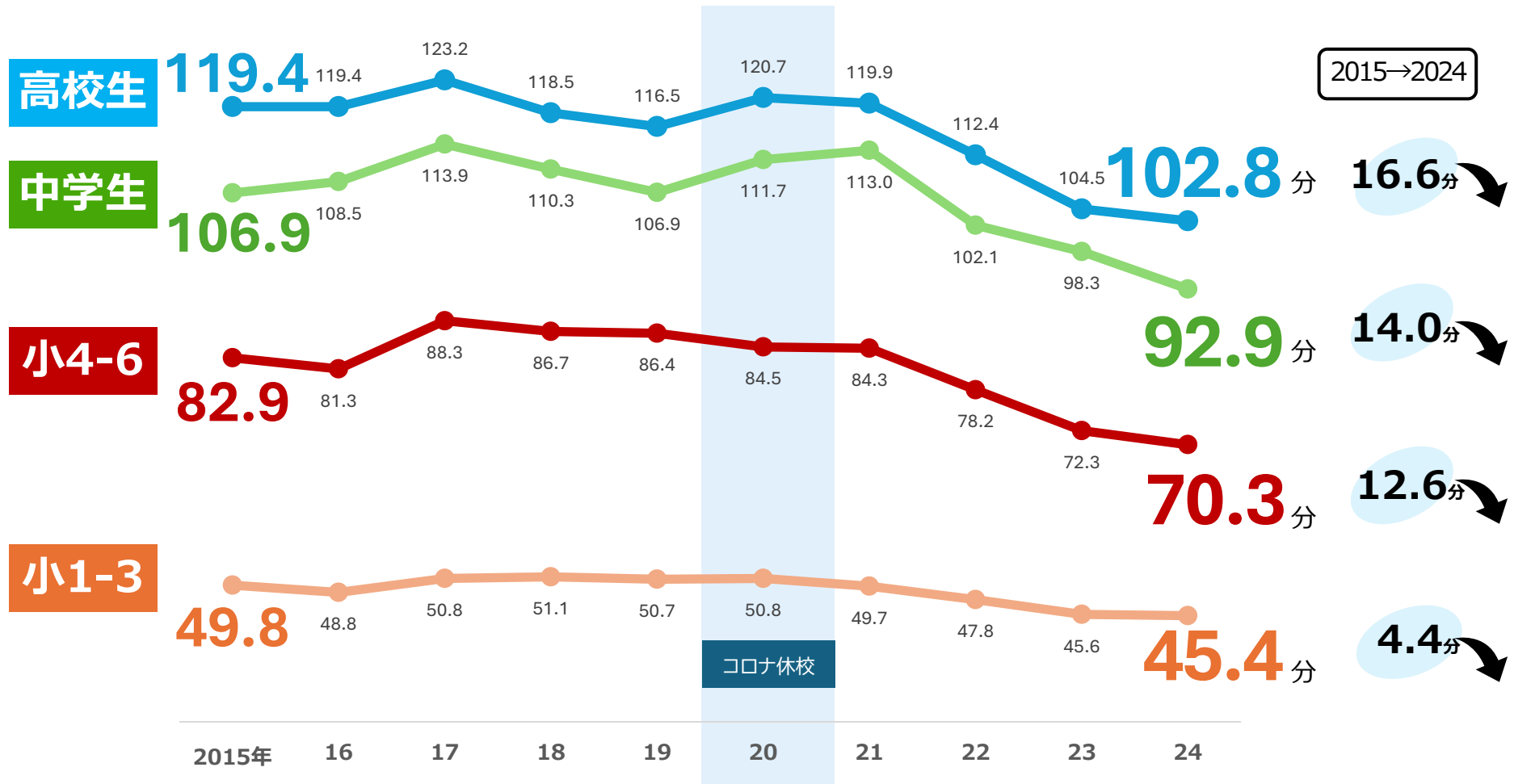
学校以外の
学習をする



(出典) 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもICT利用に関する調査2023」

* 調査では、インターネットを使って次のことをどれくらいしているかをたずねた。数値は、「週1～2日」「週3～4日」「週5～6日」「ほぼ毎日(7日)」の合計。

小4～高3の学習時間は1日10～20分減少



(出典)東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2015-2024」

*「あなたはふだん(学校がある日)、次のことを、一日にどれくらいの時間やっていますか。学校の中でやる時間は除いてください。」という設問の「学校の宿題をする時間」、「学校の宿題以外の勉強をする時間(学習塾の時間を除く)」、「学習塾での勉強時間」に対する回答。*学習時間は、「宿題」+「家庭学習」+「塾での学習」の1日あたりの平均時間。「学校の宿題」「家庭学習(学校の宿題以外の勉強をする時間)」の平均時間は、「しない」を「0分」、「4時間」を「240分」、「4時間以上」を「300分」などと置き換えて算出。「塾での学習」の平均時間は、「通っていない」と回答した子どもを0分、「通っている」と回答した子どものうち「1回にどれくらいの時間、学習塾で勉強していますか」という質問に対して、「30分」を30分、「1時間」を60分、「4時間」を240分、「4時間以上」を270分のように置き換え、適当な回数の通塾回数をかけあわせて7で割って算出。